

多趾症・多合趾症

足の先天性疾患としては比較的多くみられます。第5趾（小指）に発生することが多いですが、第1趾（母趾）や他の趾にもみられることもあります。

隣接した足趾と皮膚性に癒合して合趾を伴うことも多いです。

治療は1歳から1歳半頃が手術時期の目安となります。余剰足趾を切除後、残存趾の向きを金属ピンや靭帯縫合などを用いて矯正します。合趾を伴う場合は、分離を同時に行います。合趾を分離するには趾の側面の皮膚が欠損するために足の内くるぶし付近の皮膚を採取し植皮を行います。

術後は治療内容により前後しますが、約4週間のギプス固定を行います。その後もテーピングなどを指導する場合があります。

成長とともに変形が出現する場合がありますため、外来にて術後も定期的にチェックを行います。変形を矯正するために再度手術を行う場合もあります。

